

(様式3)

申請団体概要書

(1) 団体名	学校法人 金沢学園 金沢幼稚園				
(2) 所在地	山形県新庄市上金沢町 12-25				
(3) 団体設立年月日	昭和37年4月1日/学校法人認可 昭和46年12月2日				
(4) 代表者等役員	別紙「役員一覧」のとおり				
(5) 職員数	常勤	雇用形態	職種	人数	※職種の欄は適宜追加してください。
		理事長		1名	
		園長・教頭・主幹教諭		4名	
	非常勤	教諭・事務・運転手		13名	
		講師		1名	
		運転手		1名	
		合計		20名	
(6) 沿革及びこれまでの事業実績	<p>昭和37年4月1日 金沢義衛を初代園長とし、園児48名、教職員5名の体制で、無認可幼児施設「金沢幼稚園」として設立。</p> <p>昭和39年 遊戯室の増設を行う。</p> <p>昭和41年 5周年事業としてグラウンドの整備を行う。</p> <p>昭和42年 地域の保育ニーズの高まりを受けて、定員を80名から120名に増加する。</p> <p>昭和46年 学校法人金沢学園認可 定員120名許可される。 学園の理事長として金沢繁義が就任する。 金沢幼稚園長も金沢繁義が2代目として兼任した。</p> <p>昭和47年 創立10周年記念建築を行う（詳細は下記3か所）。 ・バス車庫の建築を行う。 ・保育室3室と管理棟の増築を行う。</p> <p>昭和49年 遊戯室2室に改装し新遊戯室の新設行う。</p> <p>昭和50年 定員を120名から200名に増員する。</p> <p>昭和51年 給食室の増設を行う。</p> <p>昭和52年 保育室1室木造で増設を行う。</p> <p>昭和55年 新庄ベビーホームを開設する。</p> <p>昭和56年 20周年事業として、保育棟全面鉄筋コンクリートで全面改築を実施。同年竣工祭と20周年記念式典を挙げる</p> <p>昭和57年 外構工事で新グラウンドの造成を行う。 オープンスペースの建物で、亀田佳子先生の指導の下、オープン教育を推し進める。</p> <p>昭和60年 米国コロラド州コミュニティーカレッジキンダーガーデンと姉妹園締結。</p> <p>平成 3年 30周年を迎え保育室のオープン化に取り組む。</p> <p>平成 5年 第3代園長に金沢のぶ子就任、副園長に金沢友治が就任する。</p> <p style="text-align: right;">次ページへ</p>				

平成 8年 理事長の金沢繁義が山形県私学教育功労賞を受賞する。
平成 9年 児童減少に伴い、園児定員を180名とする。
平成10年 山形県私立幼稚園教職員大会最上大会で公開保育を行う。
平成14年 40周年で管理棟を新築する。
学童保育事業を開始する。
平成16年 園長の金沢のぶ子が山形県私学教育功労賞を受賞する。
平成22年 金沢友治が金沢学園の2代目理事長に就任する。
平成26年 児童減少に伴い、園児定員を130名とする。
平成27年 第4代目園長に長南みえ子が就任する。

オープン教育を基本に幼稚園「教育要領」の改訂に心がけながら、幼児の自主性を尊重し、一人一人を大切にする教育・保育の実践に取り組んでいる。

建学の精神を大事にしながら幼稚園を運営し、新庄ベビーホームや学童保育も行っている。一貫した幼児教育を行い、地域から愛され、保護者にも信頼される幼児教育施設を目指している。

創立55年目を迎え、卒園児は3,700名に上り、初代卒園児は58歳となり、各分野で活躍をしている。

7) 現在申請中若しくは申請を検討している別の施設整備事業の有無

新庄ベビーホームは平成28年度から小規模保育事業への移行を検討中である。

また、金沢幼稚園の新制度への移行は、幼稚園型認定子ども園で平成29年度からの移行を検討し、併設保育機能施設の増設も模索中である。なお、民間移管後(学校法人)1年後には社会福祉法人での運営を検討するが、少子化等の対応のため、15年から20年後の間に、認定こども園金沢幼稚園と社会福祉法人の新保育所の一体化を視野に検討を行う考えである。

さらに、地域や市の出生数等を慎重に精査しながら、今後の施設整備とその財源、長期の経営計画を学園本部理事会で立案していく予定である。